

令和2年度バス事業における評価結果について

評価指標及び目標値	令和元年度実績 (調査結果)	令和2年度実績 (調査結果)	評価結果・評価基準からの方向性	備考(見直し策の具体例)
1便あたりの平均利用者数 (基本路線9人以上、乗継支線2人以上)	1便あたり平均利用者数 基本路線8.9人 乗継支線1.6人	1便あたり平均利用者数 基本路線7.1人 乗継支線1.5人	○未達成 コロナウイルスの影響から、基本路線・乗継支線いずれも前年度より減少した。	コロナウイルス感染拡大による影響と思われる。R3年4月～12月においても利用者が減少している現状から、しばらくは利用者が減少すると思われる。
収支率 (基本路線30%以上)	基本路線収支率 19.6% 但し、無料措置が無ければ23.7%	基本路線収支率 15.0% 但し、無料措置が無ければ18.2%	○未達成 コロナウイルスの影響による乗車数減少に伴い、収支率が低下したと考えられる。	コロナウイルス感染拡大による利用者減少状況の影響が大きいと思われる。また、運行車両の経年劣化による修繕費が増加している。
満足度 (1年目50%以上、2年目以降60%以上) 「満足」及び「やや満足」の合計値の割合をいう。	バス利用者実態調査結果(令和2年3月実施)による。 ○運行ダイヤ 48.6% ○バスルート 77.3% ○バス運賃 92.9% ○運転士マナー 90.9%	バス利用者実態調査結果(令和3年3月実施)による。 ○運行ダイヤ 48.4% ○バスルート 83.1% ○バス運賃 97.7% ○運転士マナー 93.3%	○一部未達成 運行ダイヤは前回の調査結果を若干下回った。他の項目は全て前年度を上回っている。引き続き満足度の向上に努める。	バスが住民生活に定着しつつある中、引き続き、利用者の意見をできる限り反映し、満足度の向上を図る。
利便性 (1年目50%以上、2年目以降60%以上) 外出機会が「増加」及び「やや増加」した住民の割合をいう。	【利用者実態調査】 月単位の利用者が減少し、週単位の利用者数が増加。利用頻度は、週5回利用者が増加。また、往復バスを利用する割合は片道利用が増加している。 【住民アンケート】 バスを月1回以上利用したことがある方のうち、外出機会が増加及びやや増加した割合は、約50%で、半数以上において、また、月単位の利用者数も増加している。	【利用者実態調査】 ・バスの利用回数は、R1年度に比べ週単位の利用者数が増加。特に、週5回利用利用者が増加。 ・乗車目的では、通勤、通学、買物の利用者数が多い。 ・バスが定着していると思われる。 ○R2年度は住民アンケート未実施。	○未達成 ・評価指標とする住民アンケート調査は毎年実施していないことから、増減比較をする客観的数値がないことため、未達成とする。 ・利用者実態調査における週の利用回数増加、通勤・通学・買物の利用目的が多く、バスが定着してきていると思われる。しかし、便数増や運行ダイヤ改善への意見は依然として多い状況から、利便性は向上しているとは言い難い。運行ダイヤの見直しなど、満足度向上策の検討及び実施に努める。	利便性及び満足度向上策を持続的に実施する。